

国指定史跡

おおぐる わ かいづか

大曲輪貝塚

縄文図鑑

~OGURUWA KAIZUKA~

名古屋市教育委員会

貝層
大曲輪貝塚の発掘調査でみつかった貝層の様子です。貝殻や土器のかけらなど、昔の人たちが食べたものや暮らしに使われた様々な道具を見つけることができます。

ハイガイ



ハイガイがたくさんあるね!



黒っぽい土の中に
見える白いものが貝殻で、
茶色いものが土器です。



オキシジミ



ハマグリ



マガキ



他にもこんな貝が
出土しているよ!

アカニシ



ここに載っている
貝はみんな実寸大
なんだよ!



大曲輪貝塚で出土した貝について
むかしの人が食べ終わった貝や使わなくなった土器などを同じ場所にまとめて捨てた跡を貝塚とよびます。貝塚は集落の中や近くにつくられて、生活道具(石器や骨角器・土製品)や動物の骨も一緒に埋められている場合もあります。また、貝塚がつくられてから何千年か経たのちに貝塚の場所にお墓が作られたケースもあります。日本の土壌は酸性のため、人や動物・魚の骨などが土の中で溶けてしまうため残りにくいですが、貝殻に含まれるカルシウムが酸を中和するため、貝や骨が残ります。大曲輪貝塚の貝塚は約20~40cmの厚さで残っており、ハイガイ・マガキ・オキシジミ・ハマグリ・アカニシなど、干潟の泥にいる貝が多いことが特徴です。ここに載せている貝殻の写真は実際に見つかったものの実寸大です。マガキ・ハマグリ・アカニシは、この写真よりもっと大きく成長していきます。



大曲輪貝塚とは
名古屋市瑞穂区山下通にある縄文時代の遺跡です。昭和のはじめごろに発見されました。縄文時代は海面が高く、この一帯まで海が近くにありました。この場所で見つかった土器や石器、貝殻などを展示する施設を瑞穂公園陸上競技場横で計画しています。

名古屋市

大曲輪貝塚

瑞穂区

大曲輪貝塚は瑞穂区の瑞穂公園(パロマ瑞穂スポーツパーク)内にあります。

大曲輪貝塚を含めた瑞穂公園陸上競技場は令和8年度に整備完了予定です。

名古屋市教育委員会事務局文化財保護室
TEL:052-972-3268 FAX:052-972-4202
E-mail:a3268@kyoiku.city.nagoya.lg.jp
令和6(2024)年3月発行

ここでは、土器や他の生活道具(石器や骨角器・土製品)や食用にした動物の骨をすべて実寸大で載せています。日常で使われていたものがタイムカプセルのように貝塚などの遺跡・遺構から出てきました。数千年後の現代、縄文時代当時の暮らしを考えるうえで貴重な手がかりとなっています。

とくう
土偶



人をモチーフにしてつくられ、祭祀などに使われたと考えられます。穴のあけられているものは人の頭の部分をあらわし、関東でも似たものが見つっています。下のものは人の上半身をあらわしています。



石器



狩りで動物を捕まえたり、捕まえた動物を加工したり、集めた木の実などを調理する際に使った道具です。石器に使われた石は、地元産の石だけでなく、ほかのムラの人びとと交流して手に入れた石もあったようです。

石匙(いしざじ)

動物や植物を加工するために使われたナイフです。縦型のもので横型のものがありました。



石鏃(せきぞく)

動物を捕まえるための矢の先端につけられました。矢の幹(矢柄)へ接続する部分が茎のあるものとなないものがあり、茎のないものが古いものの特徴です。矢柄との接続は植物の紐や天然のアスファルトを使ったと考えられています。



石斧(いしおの/せきふ)

木を切り倒したり、土を掘ったりしていた道具です。石を打ち欠いただけのもの(打製石斧)と石を磨いて凹凸をなくしたもの(磨製石斧)があります。



石刀(せきとう)(破片)

刀に似た形をしており、祭祀に使った道具と考えられています。格子模様などの装飾がされたものもあります。



石錐(いしきり)

動物や木の皮などに穴をあけるための道具です。割ると鋭くなる硬い石が好まれました。



こっかくき
骨角器



狩りで捕まえた動物の骨や角、貝を使って作られた道具や装飾品です。

貝輪

腕輪の一種です。



ヘラ

用途はわかっていますが、材料はシカの角で作られています。



ヤス

魚を捕るときに使った道具です。



針

植物を縫い付けるときに使う縫い針と考えられます。両者は形が似ていますが、ヤスは太く、針は細い形をしています。



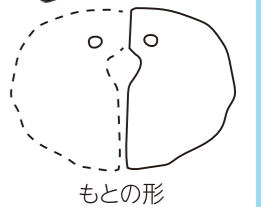
土製品・石製品など



どちらも耳飾りです。左は粘土で作られ耳栓とも呼ばれます。右は切れ目のある環状の石で作られ、球状耳飾といえます。おしゃれのために耳たぶにつけていました。



このように耳たぶに穴をあけてはめていました。



動物・魚の骨

シカ・イヌ・オオカミ・イノシシ・タヌキなどの哺乳類や、ウナギ・イワシ・アユ・タイ・マグロ・アジなどの魚の骨もみつかりました。これはニホンジカのおごの骨です。



縄文土器



縄目(縄を土器に押し付けて回転させてついた模様)のものがよく知られていますが、貝やヘラ、ツメで模様をつけたり、粘土紐を使って飾り付けたような土器も多く見つかりました。主に煮炊きや食料の貯蔵に使われました。ここに載せているものはすべて土器のかけらで、約1万年間続いた縄文時代の中で模様によって流行りがあることから、時代を推定する手がかりとなります。

土器の模様は何を使ってつけたかな?

- 1.竹 2.爪 3.縄

(答えは右下を見てね!)



ここに載っている写真は実寸大です。

5cm



答え:全部